

# 整備機器

## 新商品

### 小野谷機工

トラック・バス用タイヤチェンジャー

#### 「PROSEED PSD-455/1700」

# シングルタイヤへ対応したチェンジャーも

超偏平シングルタイヤ「チャックスライド機」の交換作業を可能にする「構」だ。ツールとホイールを合わせる際、従来は「プロシードPSD-455」、23.5×25クラスツールが伸び縮みするの建設機械(OR)用タイヤまで幅広く対応する「プロシードPSD-1700」は兄弟モデルとして、それぞれ約15年ぶりに大幅なリニューアルを遂げた。

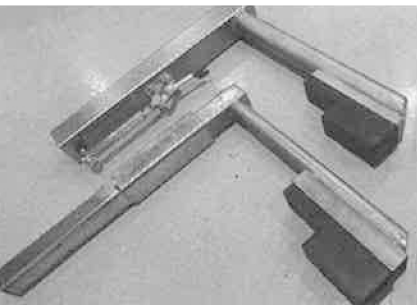
2つの機種には作業性向上や作業者の安全性確保につながる共通の機能が多く搭載されている。商品開発部・機器商品開発グループの坂井良治氏に、まずはそれらの特徴を解説してもらった。

一つ目はホイールへの径合わせをチャックで行

坂井氏は「従来タイプでは後方がデッドスペースになってしまいが、小径タイヤの作業を行う時にはコンパクトにでき、必要な時に伸ばすことで、より広くビットスペースを活用することができ」とそのメリットを話す。

また、「パワフル」という点にも注目したい。ビットブレイク力やアーム持ち上げ力は従来機より20〜40%も向上したという。「スピードとパワー」は特にユーザーからの要望が多く、機器の力強さが結果としてスピードアップにつながっている。

3番目の特徴は「省電力ユニット」の搭載だ。これは電気代の節約はもちろん、作業場の静音化、油圧作業油の劣化抑制にも寄与する。



安全かつ効率的な作業を実現するための付属品も多く揃えた

源を入れると起動音が発生し続けるが、新モデルではスイッチをオンにして油圧ユニットから何らかの信号を送った時だけ作動し、信号が無くなれば自動で停止する仕組みになっている。

さらに同社の主力機種「プロシード」シリーズならではの特長として「ダブルアクション」セクター固定&任意作業高といった機能も継承した。

「ダブルアクション」はアームとツールが同時に交互移動するもの。従来タイプはそれぞれに動くのに対して、1回の動作(アクション)で完了しスピーディーな作業を実現する。

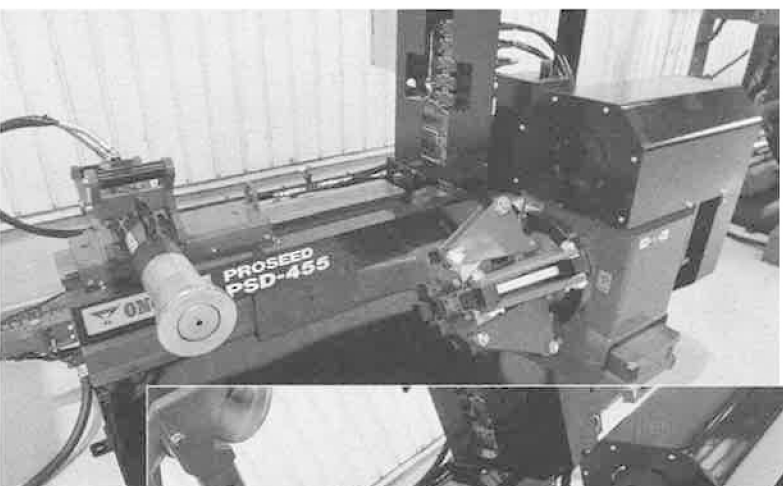
また、「セクター固定」は、サイズに関係なくツールのロック時にはチャックのセクターにセットされ、ビットへの負担が少なくなる。セクター固定でない機械ではホイールを上げる作業が必要になるが、新機種はそれがいち早く対応した」としており、「シングルのタイヤの交換作業を自在に操るニューマシン」と自信を示す。

超偏平シングルタイヤは近年、国内市場でバス用、小型トラック用

「プロシードPSD-455」は、超偏平シングルタイヤに最適な仕様で設計したことが最大の特長。同社では「シングルタイヤは高速道路などをメインに走行する車両で採用するケースが増えている」と予測しており、それにいち早く対応した」としており、「シングルのタイヤの交換作業を自在に操るニューマシン」と自信を示す。

もう一方のニューモデル「プロシードPSD-1700」はトラック・バス用、小型トラック用

「プロシードPSD-1700」はトラック・バス用、小型トラック用



「PSD-455」

「PSD-1700」



坂井良治氏

も新商品が相次

同モデルにはスライドプレート構造を採用した点もポイントだ。従来機種よりも剛性が高いため、どの位置でもたわみ量が少なく、隙間がなくなるという利点がある。

坂井氏は「ベースは同じなので、余裕が欲しいお客様は「455」、大型のOR用タイヤはさほど作業しないという方には「1700」をお勧めしたい」としている。ここでは紹介しきれないほどの多くの機能で、ユーザーニーズに応えた2つの新型チェンジャー。同社の主力機種としてプロシードから自社整備を行うユーザーまで幅広く提案していく考えだ。

(林 岳史)